

令和6年度 第2回 早島支援学校 学校運営協議会 【記録】

1 日時 令和6年12月18日(水) 13:30~15:30

2 会場 岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者 ・学校運営協議会委員10名

・学校(事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、進路指導主事、交流ボランティアチーフ、指導教諭)14名

4 内容

(1)開会行事

①開会挨拶 <校長>
②日程説明 <事務局>

(2)説明・協議

<進行:会長>

○重点協議事項「地域に開かれた学校づくり」に関する取組の実施状況について

①安全に関する取組 <担当教頭その他>

②進路に関する取組 <担当教頭その他>

③地域交流・地域貢献に関する取組について <担当主幹その他>

④その他

○質疑応答

(田野様)安全に関するところの質問です。引き渡し訓練での引き渡しの基準は?中学校では、震度 5 と設定されているが。

→(校長)県の規定が震度 5。このまま学校に滞在する中で、下校が困難になることが想定されるときは、下校を判断することもある。県立学校は、一晩程度は留まることを想定して備蓄はしている。十分ではないかもしれないが、本校は、山の上であり、つながっている道は2ルートのみ。この道路が寸断される可能性も高い。

(田野様) temi の話を聞いて、個別最適化がされているのだろうと思った。本校も休みがちな子のために、配信はしているが、その子の意思は反映されていない。この取り組みは、今後はどうなっていくのか。

→(学校)DX ハイスクール事業自体は終わるが、取り組みは続けていく。

(田野様)中学校は、今年度から、メール配信をやめて、classroom 配信にしている。子ども用のアカウントに配信している。子ども宛に各教科からたくさんの資料が毎日配信されるので、保護者宛のフォルダを作ってはいるが、保護者宛の文書を保護者が見つかるのが難しくなっている。小学校にそろえたが、使いにくさが出ている。保護者の方曰く「メールは開かないよ」。

→(学校)県立学校は、働き方改革の一つで、アプリの導入に予算がつくようになったので、いくつかのアプリから楽メを導入することにした。バスの位置情報もわかるようになっている。

(花元様)佐宮先生のお話を聞いて、技術は不自由な人のために発展していくべきだなと思った。お金がかかるときいて、なるほどと思った。PTA を代表して、県にも要望を伝えているが、修学旅行時の医ケア児の看護師や医師の帯同をして欲しい。保護者がいかになくてもいいようにしたい。他県ではできているところもある。今回、県から回答があって、「お金がないから無理」と言われた。技術よりお金を集める方が簡単なのではないか。お金をかければ、これだけ素晴らしいことができるなら、お金をかけて欲しい。親と離れて

旅行に行く経験は、学校にいる間にしか経験できないことなので、そこをわかって欲しい。素晴らしいことをアピールして、お金を出してもらえるようにしたい。

(谷本様) 安否確認は、学校メールということだが、日常的に使っている？

→(学校) 日常的に使っている。手紙類で配信できるものは、そちらを使っている。

(谷本様) メールは、保護者の方に定着している？

→(学校) 安否確認について、配信してすぐは、6割くらいの回答率。先生方に説明後、懇談後一緒に確認してもらい、100%になった。

(谷本様) 保護者が見たかどうかはわかるのか？

→(学校) 開封確認はできる。安否状況を選択肢から選んでもらったり、個別に状況を打ってもらったりできるようにしている。アプリなので、開いていないと再配信できるように設定している。

(谷本様) リモートワーク就労に向けて、ということで、支援学校の生徒を受け入れる企業は増えているのか？

→(学校) 現在は、大企業の特例子会社が社員の雇用をしている。都会の企業がやっている。リモートなので、距離は関係ないようだが、心理的距離やアフターケアのことを考えると、岡山県内の企業もあると良い。

(谷本様) リモートワークは、企業からパソコンの貸与はあるのか？

→(学校) 個人のパソコンでやっている。パソコンを使う部屋が家族から見られないか等、守秘義務が守れるかどうか企業側は気にしている。都会では、リモートワークができる人材が不足してきているので、地方でもこれから広がっていくことが予想されている。職種は、HP 作成やチェックなど。利益を生み出している。

(谷本様) リモートワークが増えると、卒業生の選択肢が広がってとても良い。

(3) 各委員から

(中元様) 視線入力は、子どもの心の入力だな、と思った。子ども一人一人が心の表現を持っている。今回のことを糸口にして、他の子ども達にももっともっと広げてもらえたらと思った。

(花元様) 人材も大事だな、と思っている。個人的には、教育学部の学生さんと話す機会があって、その子は数学が得意な子に数学を教えるのが楽しいと言っていた。「特別支援学校は？」と聞くと「全く興味ない」と言われた。興味がない人が支援学校に来た場合、その才能を発揮できない。興味がある人が支援学校に来てくれて、実力を発揮できるように、支援学校の先生が目指すところや仕事の楽しさが他の人に伝わるといいと思う。若い学生さんに伝えていくことで、興味があり優秀な学生が集まり、さらに伸びていくと思う。教育実習先の雰囲気が大きい。働いている先生方が働いていて楽しい、やりがいがある職場になってほしい、

(田野様) 学校間交流で、直接交流を美術部はしている。いろんな人と交流するのが、子どもたちは好きなので、引き続きよろしくお願いします。

(谷本様) 年々やることや新しい取り組みが増えてきて、先生方は大変ではないかな、と思う。先生方の働き方改革は進んでいるのかな？と思う。先生方のリモートワークは、学校現場では行われているのか？

→(学校) コロナの時期に、一部行われた時期はあるが、今はない。県職員や事務職員は制度としてあるが、学校の教員は、対象外。

(谷本様) 病院も、一部はあるが、なかなか難しい。学校の先生は、どうなのかな、と思って。デジタルフェスも午後の発表を聞かせていただいたが、先生方は大変だな、と思います。

→(学校) 時間外勤務時間の集計を毎月している。このところ右肩下がりではきていたが、数年ぶりに、今年度は増加している実態はある。

(谷本様) 教員の働き方改革で、何か計画していることはあるのか？

→今年度は、文部科学省から、中学部は1086時間を超えないようにと言う目安が示されたので、授業時数の見直しをした。例えば、懇談の日の午後等を下校するなどして、先生方が準備等に時間が使えるようにした。また、学校メール・アプリを活用して、欠席・遅刻・連絡が電話以外でも受け付けられるようになった。これまでは、朝学校へ電話をしなければならなかったが、例えば夜中の段階で発作や体調不良が分かったときに、その時に連絡をすることができるので、好評だ。先生方も、いつでもどこでも誰でもが確認できるようになった。これまでスクールバスの利用状況を紙でやりとりして集約していたが、それがこのアプリでできるようになったので、スクールバス利用の有無に関する確認業務の削減ができるようになった。

(4) 閉会行事